

このコーナーでは、都産技研の研究員をクローズアップしてご紹介します。研究員の人となりが分かることで、より都産技研を身近に感じていただきたいという思いから生まれました。どんな人が都産技研にいるのか、ぜひご覧ください。

# めっき製品評価を サポート!

今回ご紹介するのは、表面技術グループでめっき技術を担当する桑原 聡士さんです。今年2年目を迎えた若手研究員の桑原さんは、さらなるエキスパートを目指し、経験を積んでいます。

## ●主な仕事内容は?

めっき製品は、メタリックな外観や耐食性などを持たせるために身近にあるさまざまなものに使われています。私は、めっき製品の膜厚測定や塩水噴霧試験を行って、性能評価や製品開発のサポートをしています。

## ●桑原さんの大事にしていることは?

お客さまのご要望をよく聞き、より満足していただける試験を行うように心がけています。また、試験手順や結果について詳しくご説明し、納得いただけるようアフターフォローを徹底しています。

# Introduction



本部  
表面技術グループ  
研究員  
桑原 聡士

## 毎日が発見の連続。日々勉強です!

めっき製品の相談には、多種多様なものを持ち込まれます。身近なものから、普段は目につかない部品、時には最先端産業の製品まで…。内容も性能評価や事故関連など多岐にわたります。そのため、毎日が新鮮な発見と勉強の連続です。今後も相談や試験を通して、さらなるエキスパートを目指していきたいと思えます。

お問い合わせ 表面技術グループ<本部> TEL 03-5530-2630

# TOPICS

トピックス

## 第21回 燃料電池シンポジウムに出展

5月29日～30日にタワーホール船堀で開催された第21回燃料電池シンポジウムで、都産技研と株式会社ケミックスの研究成果「スクリーン印刷による固体高分子型燃料電池セパレータへの導電性被膜形成」のポスター発表を行いました。また、燃料電池の普及に関する展示コーナーでは、クリーン・エネルギー普及への取り組みとして秋田県大潟村で開催される燃料電池車レースが紹介され、都産技研の燃料電池車が展示されました。

展示した燃料電池車は、都産技研有志による製作車両で、5月5日に開催されたレースに出場し、60NLの水素吸蔵合金ボンベ2本で2時間の規定時間を完走(公走行距離:28,126.42m)し、4位に入賞したものです。

シンポジウムでは、環境対応型の新しいエネルギー技術である燃料電池について活発な議論がなされるとともに、都産技研の成果も多くの参加者の関心を集めていました。



都産技研の燃料電池車



環境技術グループが行った塩素濃度簡易自動測定装置の研究開発が、木材産業の発展に寄与する新しい研究や技術開発に与えられる市川賞を受賞しました。

環境技術グループ	安藤 恵理 杉森 博和 荒川 豊
経営企画室	瓦田 研介 田熊 保彦
大起理化工業株式会社	大石 正行氏

受賞名 市川賞  
 受賞内容 震災で発生した廃木材の塩素濃度簡易自動測定装置の開発  
 表彰団体 公益社団法人日本木材加工技術協会  
 受賞日 平成26年5月29日(木)

